

海外製ICUベッドマットレスの体圧調査 ～本邦クリティカルケア領域の患者に活用するために～

1 対象

A病院に勤務するスタッフで、体重が40 kg台～100 kg台の男女 10名

2 研究目的・方法

●目的

急性期病院のICUでは人工呼吸器が装着されている状態からリハビリテーションを積極的に行う傾向にあり、その早期リハビリテーションを進めるにあたってハイパフォーマンスな海外製ICUベッドを多くの病院で導入している。当院においても超急性期から早期離床や経腸栄養、VAP予防のために頭側挙上30度で過ごす時間が長く、2016年に仙骨部下部や尾骨に褥瘡を形成する患者が増えた。さらに褥瘡発生している患者の多くが海外製ICUベッドを使用している患者に集中しており、この海外製マットレスの特徴を適切にとらえて活用できていないことが影響している可能性があった。そこで、海外製ICUベッドの体圧分散寝具が、急性期、特に集中治療室に入室している本邦の患者に褥瘡予防の観点からどのような点に配慮するべきかを明らかにするために、日本人の体型やクリティカル領域で多い姿勢による体圧を調査した。

●方法

性別、年齢、体重、BMIを収集する

3 研究に用いる情報の種類

体重が40 kg台から100 kg台のスタッフ1人ずつに、海外製ICUベッド、モルテン（グラランデ）、ケープ（ビッグセルかネクサス）に臥床してもらい、各体位による体圧を測定する。

4 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

住所 : 〒507-8522 岐阜県多治見市前畑町5丁目161番地

電話番号 : 0572-22-5311

研究責任者: 地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院 看護部 三宅 規子